

教科名	国 語	科目名	文 学 国 語	必修					
科 別	商 業	科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2	単位	
教 科 書（発行所）	精選文学国語(明治書院)								
副 教 材（発行所）	常用漢字クリア 五訂版 漢字検定対応								

学 習 目 標		文学作品を読むことを通して深く共感・想像する力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高める。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句を知り、語彙を豊かにしている。 教科書の文章の種類や特徴について理解を深め、文体や表現技法を体系的に理解し使っている。
	思考・判断・表現	文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解している。 言語文化の特質について理解を深め、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしている。 書くこと・読むことを通して言語文化の特質について理解を深めている。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	① 小説入門 言葉によって(大江健三郎)	「言葉」と「文学」との関係や、「文学」を読むこと・書くことについて、どのようなイメージを持っているか、話し合う。 「言葉によって」できることは何か、筆者の考えをもとにまとめる。	準備課題提出
	5	山月記(中島敦)	典拠である中国唐代の小説『人虎伝』の書き下しや現代語訳と比較し、李徴の性格や虎になった理由を読み取る。	中間考査
	6	② 詩歌入門 秋の折(高村光太郎) 雪(三好達治) 汚れつちまつた悲しみに……(中原中也)	さまざまな詩に触れ、その歴史性や特徴、独特の効果を学ぶ。 詩的表現が持っている力や可能性について考える。 詩句の反復による効果を理解する。	
	7	文学の窓 誌的リズム-音数律に 単元の言語活動2 (詩らしさ)を探究	詩の反復による効果と、「書く」「読む」行為の関係性について探究することを通し、文体の特徴や効果について考察する。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	③ 文学の境界を広げる 地球から来た男(星新一) 単元の言語活動 さまざまなメディアに生息する (文学)を発見する	心理描写やリアリズム以外のさまざまな表現形式をもつ小説への理解を深め、多様な読みを発見する。 文学にはどのようなジャンルがあるか、特性や特徴を考える。 メディア化された文学作品を取り上げ、元の作品とメディア化とを比較する。	夏季課題提出
	10	④ 言葉の力 山東京伝(内田百閒)	近代日本文学の特色ある作品を通して、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。 「わかる」「わからない」とはどういうことなのか、身近な話題を通して考える。	中間考査
	11	⑤ 伝統と革新 短歌の輪郭(小池光)	本歌取りや歌枕といった技法を学ぶとともに、たった31音の小さな詩の形が秘める表現力について読み味わう。	
	12	俳句十二首 文学の窓 『桐の花』の言葉(俵万智) 単元の言語活動 俳句を詠んでみる	近現代の俳句を鑑賞し、自分が読み取った句の情景を短い文章にまとめる。 俵万智の文章を参考に、特に心に残った短歌を一首選び、200字程度の鑑賞文を書く。 特徴的な表現技法を理解し、語感を磨く。 俳句の実作と相互批評に取り組む。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	⑥ 戦争と記憶 現場に来て初めてわかること	筆者が考える現地の困難さを伝える写真について、なぜそう考えるのか話し合う。	冬季課題提出
	2	空き缶(林京子)	原爆投下から三十年を経て本作が発表されたことには、どのようなメッセージが込められていると考えられるか、話し合う。 本作を読み継ぐことは、現代の社会において、どのような広がりを生むのか話し合う。	
	3	単元の言語活動 戦争という(出来事)を伝える	戦争という(出来事)を考え伝えていく際に有効な方法を実践する。	学年末考査 課題学習

教科名

国語

科目名

総合国語

必修

科別

商業

科

学年

2

年

コース名

全

コース

2

単位

教科書（発行所）

副教材（発行所）

現代文読解 基礎ドリル（駿台文庫）、正しく読み・解くための力をつける現代文ステップ2・正しく読み・解くための力をつける古典ステップ1（数研出版）、小論文チャレンジノートVol.3・4（第一学習社）

学 習 目 標		文章の種類を踏まえて内容や構成などについての確に捉えることができる読解力を育成し、作品への解釈、理解を通してものの見方、考え方を深め、自らの考えや意見を根拠とともに論理的に述べることができる力を育てる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、常用漢字の読みや書きに慣れる。(1)ウ 古典作品を適切に理解し親しむために必要な文語や訓読きまり、古典特有の表現について理解する。(2)ウ
	思考・判断・表現	書き手の主張や考えを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。(1)ア 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方を考えるとともに、文章の表現の仕方を工夫する。(1)ウ 古典の作品や文章を、古典特有の表現や訓読に注意して的確に捉え、自らの知見と結びつけて考えを深める。(1)オ
	主体的に学習に取り組む態度	書かれている文章から筆者の主張や考えを的確に読み取ろうとしている。 様々な言語活動を通して自分の意見を根拠を添えて論理的に述べようとしている。 古文の学習に興味を持ち、物語の展開や話の面白さについて理解しようとしている。
留 意 事 項		現代文読解基礎ドリル、読んで見て覚える重要古文単語315は通年で授業冒頭の演習として扱い、長期休暇中の課題にも用いるものとする。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	古典ステップ1 16漢文入門1、2、3、4 現代文ステップ2 1コケはなぜに美しい 大石善隆	・漢文における基本的な訓読のルールを理解し、正しく書き下し文に直せるようにする。 ・評論のテーマについて理解し、筆者の考えを読み取る。	準備課題提出 確認テスト
	5	古典ステップ1 3羅城門 今昔物語集	・作品を通して用言について復習する。古文作品において省略されてしまっている部分の主語や目的語を意識しながら正しく読み解く。1年次に学習した羅生門と比較し描写や展開の違いについて理解する。	中間考査
	6	古典ステップ1 20蒙求 現代文ステップ2 2多様性は人間だけのものか 福岡伸一	・否定の句法、頻出の語彙、置き字について理解する。作品を主語と登場人物を意識して読み解く。 ・環境がテーマの評論について重要語句とともに理解する。現在の環境や生物の状況に対して実生活の中でどう向き合っていくべきか考える。	
	7	小論文チャレンジノートvol3	・説得力のある小論文を書くために必要な構成や根拠の作り方を知る。本来自分が持っている意見と異なる立場を取り、反対の立場から意見を見直すことでより深い意見作りを目指す。	期末考査 課題学習
第2学期	9	古典ステップ1 6貴公子たちの求婚 現代文ステップ2 4社会の中で生きている 南野忠晴	・動詞の4種類の変格活用について復習する。助動詞を意味、活用、接続の3つの観点から学び、読解に生かす。この時代における「色好み」について理解し、他の作品への興味関心につなげる。・評論から筆者の主張を正しく読み取り、現代社会の問題をどう解決すべきか考えを深める。	夏季課題提出 確認テスト
	10	古典ステップ1 22世説新語 現代文ステップ2 11哲学の使い方 鷲田清一	・古典文法の知識を用いながら使役、受身の句法について理解する。・要点を押さえるためにキーワード、筆者の主張、対比関係、言い換え部分に線を引きながら読み進める。本文の内容を要約する。	中間考査
	11	古典ステップ1 4浦島太郎 御伽草子 9中納言の異名 今昔物語集	・浦島太郎がおとぎ話として確立した背景について理解する。頻出の古文単語、助動詞について理解し、読解に役立てられるようにする。・助動詞「る」「らる」の文法的意味について理解し文脈によって使い分ける。古典常識や官職についての知識を生かし、物語の展開を適切に捉える。	
	12	小論文チャレンジノートvol4	・「課題文型小論文」を中心に課題文の要約と読解力を養う。課題文から筆者の主張を読み取り、自らの考えを構成立てて論理的に述べる。	期末考査 課題学習
第3学期	1	古典ステップ1 10正暦五年のこと 栄花物語	・助動詞「す」「さす」「しむ」を中心として助動詞の働きと接続などについて理解を深める。登場人物の人物関係について整理して作品を読み取る。作品の描写の中で誰の行為で誰の発言なのか主語を明確にしながら、物語の展開を適切に捉える。	冬季課題提出 確認テスト
	2	現代文ステップ2 26価値の多様化と画一化 岸田秀	・段落構成を意識して、各段の役割と要点をまとめる。	
	3	小論文チャレンジノートvol4	・「課題文型小論文」を中心に課題文の要約と読解力を養う。課題文から筆者の主張を読み取り、自らの考えを構成立てて論理的に述べる。長期休暇中の課題に向けて小論文を作る上での構成や考えのまとめ方について理解を深める。	学年末考査 課題学習

教科名	地歴公民	科目名	公共	必修					
科別	商業	科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2	単位	
教科書（発行所）	公共（東京書籍）								
副教材（発行所）	公共ワークノート（東京書籍）、最新図説政経（浜島書店）								

学 習 目 標		現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。また、現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、公正に判断する力を身に付け、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うおうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
留 意 事 項		各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。また現代の諸課題を探究する際のレポートを学期に1回程度課し、評価のための資料とします。授業中の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容も評価のための資料となります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1部「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち (1)現代社会に生きる青年 (2)社会的な関係のなかで生きる人間	(1) 1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画 (2) 1 個人として尊重される人間 2 社会的な存在としての人間 3 伝統・文化のなかの人間	
	5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理―私たちの民主的な社会	1 功利主義と幸福の原理 2 義務論と公正の原理 1 公共的な空間における協働とは 2 民主主義とは 3 立憲主義とは 4 人権保障の意義と展開	中間考査 課題提出
	6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち①	1 私たちの民主政治 2 地方自治のしくみと役割 3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割	
	7	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち②	5 政治参加と選挙 6 政党と利益集団 7 メディアと世論	期末考査
第 2 学 期	9	第2章 法の働きと私たち テーマ1 法や規範の意義と役割 テーマ2 市民生活と私法 テーマ3 国民の司法参加	1 法と社会規範の役割 2 法の成立と適用 1 市民生活と法 2 多様な契約 3 消費者の権利と責任 1 司法のしくみと役割 2 刑事司法と司法参加の意義	夏季課題提出
	10	第3章 経済社会で生きる私たち テーマ1 現代の経済と市場 テーマ2 市場経済における金融の働き テーマ3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	1 私たちと経済 2 市場経済のしくみ 3 国民所得と経済成長 1 金融のしくみと働き 2 中央銀行の役割と金融環境の変化 1 財政の働き 2 財政の課題 3 社会保障の考え方 4 社会保障の課題とこれから	中間考査 課題提出
	11	第4章 私たちの職業生活 テーマ1 働くことの意義と職業選択 テーマ2 労働者の権利と雇用・労働問題	1 働くということ 2 多様な職業選択 1 労働者の権利 2 現代の雇用・労働問題	
	12	第5章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ1 国際社会のルールとしくみ	1 国際社会の成り立ち 2 国際連合の役割	期末考査
第 3 学 期	1	テーマ2 国際社会と平和主義 テーマ3 国際平和への課題	1 日本の平和主義と冷戦 2 冷戦後の世界と日本 1 現代の紛争とその影響 2 平和な国際社会に向けて	冬季課題提出
	2	テーマ4 グローバル化する国際経済	1 貿易のしくみ 2 国際金融のしくみと動向 3 グローバル化と今日の国際経済 4 国際経済の諸課題	
	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	1 探究のイメージをつかもう 2 探究プロセス	期末考査

教科名	数 学	科目名	数 学 I	必修					
科 別	商 業	科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2	単位	
教 科 書（発行所）		最新 数学 I（数研出版）							
副 教 材（発行所）		パラレルノート 数学 I（数研出版）							

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第3章 2次関数 第2節 2次方程式と2次不等式	10、2次方程式 11、2次関数のグラフとx軸の共有点	
	5		12、2次不等式 13、2次不等式の利用	中間考査
	6	第4章 図形と計量 第1節 三角比	1、鋭角の三角比 2、三角比の利用 3、三角比の相互関係	
	7		4、三角比の拡張 5、三角比が与えられたときの角	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2節 三角形への応用	6、正弦定理 7、余弦定理	夏季課題提出 確認テスト
	10		8、三角形の面積	中間考査
	11		9、図形の計量	
	12	第5章 データの分析	1、データの整理	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1		2、データの代表値 3、データの散らばりと	
	2		4、データの相関 5、相関係数	学年末考査 課題学習
	3			

教科名	理 科		科目名	化 学 基 礎			必 修		
科 別	商 業		科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2 単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）			化学基礎(実教出版)						
副 教 材（発行所）			なし						

学 習 目 標		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考查、実験レポート、単元別的小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考查の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや実験、課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分、2節 物質の構成元素	物質の分類とその分離法について理解する 物質の基本的な成分について理解する	
	5	3節 物質の三態 2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 1節 原子の構造	物質の状態とその変化について理解する 原子の構造を学び、原子ごとの構造の違いを考える	中間考查
	6	2節 電子配置 3節 元素の周期表 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	電子配置を理解し、電子配置の表し方を学ぶ 周期表がどういう決まりで元素を並べているか理解する イオン結合とイオン結晶の性質を理解し、組成式について学ぶ	
	7	2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	共有結合と、分子の表し方や形について学ぶ 金属結合と金属結晶の性質を理解する 化学結合の種類と物質の性質について分類し、考察する	期末考查 課題学習
第 2 学期	9	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質量	原子の質量の表し方の工夫について理解する 物質量を用いた数の表し方について理解する	夏季課題提出
	10	3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 5節 化学反応の表す量的関係	溶液の濃度の表し方(2種類)について理解する 化学反応式やイオン反応式の表し方を学ぶ 化学反応式が表す量的関係について理解する	中間考查
	11	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH	酸・塩基の定義と性質、その種類について理解する pHと水溶液の性質の関係について理解する	
	12	3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	中和反応のしくみと塩の性質について理解する 中和反応の量的関係と中和滴定について理解する	期末考查 課題学習
第 3 学期	1	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	電子に着目して酸化・還元を考え方を理解する 酸化剤や還元剤のはたらきや量的関係について理解する	冬季課題提出
	2	3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	さまざまな金属の反応性について理解する 電池や金属の製錬など酸化還元反応の利用について理解する	
	3			学年末考查

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育		必修		
科 別	商 業	科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）		新高等保健体育(大修館)						
副 教 材（発行所）								

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げることができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・球技 【ハンドボール】 A) 用具の扱い - B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 - C)基本技術を用いた複合練習 - D)対人練習 - E)ルールを知る - F)ゲーム(戦術練習)	・ゴールポストやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	6	・体育理論	・スポーツにおける技術と戦術・戦略 ・スポーツにおける技能と体力	
	7			
第 2 学 期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・球技 【バレーボール】 A) 用具の扱い B) ボールコントロール - キャッチボール C) 基本技能 - アンダーハンドパス - オーバーハンドパス - 複合パス D) 攻撃 - スパイク - サーブ E) ルールを知る F) ゲーム(戦術練習)	・バレーボールの基本技術であるアンダーハンドパスとオーバーハンドパスの技術を身に付ける。 - また、キャッチボールを行いながら、全身のストレッチと、スパイク動作のミートも練習する。 ・ネットを張る。安全に留意し協力して準備するよう心掛ける。 <スパイク> - ステップ練習では2歩助走で練習する。ボールを頭上でキャッチ→両手首を使って逆コートに返球→片手で返球する→ミートして返球 <サーブ> - アンダーハンド・サイドハンド・フロッタースャープの順に練習する ・ソフトバレーコートを作り、4対4のゲームを行う。 ・6対6のゲームを行う ・5体力トレーニング 6運動やスポーツでの危険予知と安全確保 について理解する ・技術の上達過程と練習の考え方	
	11			
	12		・効果的な動きのメカニズム ・体力トレーニング	
第 3 学 期	1	・体づくり運動 ・体育理論	・デッドリフトの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・big3の合計挙上重量が1年次よりも増えるように自己の課題を設定し他者と協力しながら前向きに取り組むことができる。	
	2		・運動やスポーツでの危険予知と安全確保	
	3			

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育		必修				
科 別	商 業	科	学 年	2 年	コース名	全	コース	2	単位	文理共通

教 科 書（発行所）	新高等保健体育(大修館)
------------	--------------

副 教 材（発行所）	
------------	--

学 習 目 標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
別 評 価	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明（表現）することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項	・服装は学校指定の体操着を着用する（見学者も同様）。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げるができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・球技 【軟式テニス】 A) 用具の扱い B) ボールフィーリング C) ストローク(フォアハンド・バックハンド) D) サーブ・レシーブ E) ゲーム(リーグ戦)	・基本技術を獲得し、ネットを介してラリーができるようになる。 ・サーブ・レシーブができるようになり、ゲームを円滑に進められるようになる。 ・パートナーと連携し、相手コートの空いている場所をめぐる攻防が展開できるようになる。 ・ルールを理解し、仲間と役割を分担しネット型の球技の攻防を楽しむことができる。 ・リーグ戦が円滑にできるよう審判や運営に主体的に取り組むことができる。	
	6	・体育理論	・スポーツにおける技術と戦術・戦略 ・スポーツにおける技能と体力	
	7			
第 2 学期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・器械運動 【跳び箱】 A) 記録計測・フォームの実技テスト	・安全な場づくりと用具の準備・管理が正しくできる。 ・「条件を変えた技」「発展技」に挑戦し、自己や仲間の課題を発見したり改善したりしながら取り組むことができる。 ・自己が選択した技を美しいフォームで滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ・技能の上達過程と練習の考え方	
	11	・球技 【バスケットボール】 A) 用具の扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	・ゴールリングやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	12		・効果的な動きのメカニズム ・体力トレーニング	
第 3 学期	1	・ダンス 【リズムダンス】 【現代的なリズムのダンス】	・エアロビクスの基本ステップを覚える ・基礎ステップを大きな動作で表現することができる。 ・習得した基礎ステップをつなげて踊ることができる。	
	2	・体育理論	・運動やスポーツでの危険予知と安全確保	
	3			

教科名	保 健 体 育		科目名	保 健		必修					
科 別	商 業		科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2	単位	文理共通	
教 科 書（発行所）			新高等保健体育(大修館)								
副 教 材（発行所）											

学 習 目 標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点	知 識 ・ 技 能	生涯を通じた健康や体育・スポーツの基礎となる考え方を理解しているかどうかをICTを活用した小テストや、授業中のワークシートへの取り組みで評価する。
別 評 価	思考・判断・表現	身に付けた保健体育の知識や技能を実践できているか、自分の考えを説明(表現)することができるかをグループワークやICTを活用して評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、保健体育の正しい知識に基づき判断しようとして、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用して評価する。
留 意 事 項	日頃より保健分野で扱う項目に対し興味・関心を持ち、ニュース・新聞記事等に目を向けること。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	1 単元 現代社会と健康 2 日本における健康課題の変遷 3 健康の考えと成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる健康づくり	・日本における健康課題の変遷 ・日本における疾病構造の変化とその要因 ・健康に関する考え方 ・健康の成り立ちに関わる様々な要因 ・ヘルスプロモーションの考え方 ・健康を守り、育てる環境	
	5	4 健康に関する意思決定・行動洗濯 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復	・意思決定・行動選択と健康との関係 ・よりよい意思決定・行動選択の方法 ・時代や地域で変化する感染症 ・現在、特に問題となっている感染症 ・感染症予防の三原則 ・現代の感染症発生予防とまん延防止のための対策 ・性感染症、エイズを予防するための対策 ・生活習慣病とは ・生活習慣病の予防と回復のための取り組み	
	6	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康	・身体活動、運動と健康の関係 ・身体活動、運動の実践と社会環境の整備 ・食事と健康の密接な関係 ・健康的な食生活の実践と社会環境の整備 ・休養、睡眠と健康の関係 ・健康づくりのための休養・睡眠の確保 ・がんの予防と治療 ・がんに関する社会的な取り組み ・喫煙による健康影響 ・喫煙を開始する様々な要因と依存症	
	7	14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応	・たばこ問題への対策 ・飲酒を開始する様々な要因と依存症 ・不適切な飲酒を防止するための対策 ・精神疾患とはどのようなものか ・主な精神疾患とその特徴 ・心の不調の早期発見とセルフケア ・自分だけで悩まず助けを求めることの大切さ ・心の健康社会の実現を目指して	
第 2 学期	9	2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成	・事故とその被害 ・交通事故防止のための取り組み ・自他の安全を確保する行動 ・事故の発生に関連する要因 ・交通事故を起こした場合の責任と補償 ・安全を確保する社会の取り組み	
	10	4 応急手当の意義と救急医療体制 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当 3 単元 生涯を通じる健康 1 思春期と健康	・応急手当の意義 ・心肺蘇生法の意義 ・日常的な応急手当 ・思春期における体の変化と性機能の成熟 ・救急医療体制の仕組み ・心肺蘇生法行い方 ・熱中症の予防と応急手当 ・思春期における体の変化と健康課題	
	11	2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康	・性意識の変化と異性の尊重 ・結婚、婚姻状況と健康 ・受精、妊娠、出産 ・家族計画の意義 ・加齢による心身の変化 ・性に関する情報と性行動の選択 ・夫婦関係、親子間家と健康 ・母子の健康のために ・避妊法の選択と人工妊娠中絶 ・中高年期を健やかに過ごすために	
	12	7 高齢社会に対応した取り組み 8 働くことと健康 9 労働災害の防止 10 働く人の健康づくり	・高齢者を取り巻く状況 ・働くこと(労働)の意義と働き方の変化 ・日本における労働災害の推移 ・職場における健康の保持、増進活動 ・高齢者を支える社会の取り組み ・働く人における健康問題の現状 ・労働災害を防止するための仕組み ・日常生活における健康の保持、増進活動	
第 3 学期	1	4 単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対策 4 環境衛生に関わる活動	・大気汚染による健康への影響 ・水質汚濁による健康への影響 ・環境汚染の防止とその対策 ・安全な飲み水の供給と汚水の処理 ・地球規模の大気環境問題 ・土壌汚染による健康への影響 ・産業廃棄物の問題と新たな環境汚染の課題 ・生活環境守るごみ処理	
	2	5 食品の安全性と健康 6 食品の安全性を確保する取り組み 7 保健制度とその活用 8 医療制度とその活用 9 医薬品の制度とその活用	・食品の安全性と課題 ・食品の安全性を確保する行政、生産、製造者の役割 ・生涯を通じて病気から人々の健康を守る保健行政 ・健康の保持、増進のために活用できる保健サービス ・医薬品の種類と承認制度 ・食品の安全性の確保 ・食品の安全性の確保と私たちの役割 ・医療制度と医療保険 ・医療機関の役割と適切な活用 ・医薬品の使い方	
	3	10 様々な保健活動や対策 11 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	・地球規模の健康課題を解決する取り組み ・すべての政策や取り組みに「健康」の視点を ・様々な機関・組織の活動 ・多様な人や組織が参加して進める環境づくり	

教科名	外 国 語		科目名	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ			必修				
科 別	商 業		科	学 年	2 年	コース名	全	コース	4	単位	プログレス・キャリアアップコース共通
教 科 書（発行所）		All Aboard! English Communication Ⅱ（東京書籍）									
副 教 材（発行所）		総合英語FACTBOOK English Grammar Core New Edition（桐原書店） / 総合英語FACTBOOK English Grammar Core Workbook New Edition（桐原書店）									

学習目標		必要な情報を聞き取り、または読み取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えたり、文章を書いて伝えることができる。
観点別評価	知識・技能	各Lesson で学ぶ文法を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて相手とコミュニケーションできる技能を身につけているかを小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	各Lessonで書かれている文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、テーマについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝え合っているかを小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の言語活動への積極的な取り組みや課題状況で評価する。
留意事項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。（小テストにはスピーキングテストも含む）観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	Lesson1 A Colorful Island ブラーノ島	イタリアのブラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について学習する。 関係代名詞: what	春季課題提出
	5	Lesson2 With the Beatles サムのリクエスト	曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習する。 比較表現: more, the most	中間考査
	6	Lesson3 Wild Men ワイルドマンの世界	ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と氏巫鉛について考える。 it の用法	
	7	Lesson4 Little Hero ハチドリのおしずく	世界最小の取りであるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、普段の努力と不屈の心について考える。 関係疑問文	期末考査
第2学期	9	Lesson5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。 to不定詞を含む表現	夏季課題提出
	10	Lesson6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ	海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 動詞の目的語になるif節	中間考査
	11	Lesson7 Over the Wall アートで世界をつなぐ	世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 関係副詞: where, when	
	12	Lesson8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	生物模倣についてのオンライン公園の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 知覚動詞	期末考査
第3学期	1	Lesson9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実	チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 使役動詞	冬季課題提出
	2	Lesson10 Fighting Angel ナイチンゲール	医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 分詞構文	
	3	総復習	1年間で学んだ表現や文法の復習を行う。	学年末考査

教科名	外国語		科目名	英語演習			必修				
科別	商業	科	学年	2	年	コース名	プログレス	コース	2	単位	プログレス・キャリアアップコース共通
教科書（発行所）		英検準2級をひとつひとつわかりやすく[改訂版] Gakken									
副教材（発行所）		英語アプリ Weblio Study									

学 習 目 標		「Reading」・「Grammar&Writing」・「Various Questions」・「Listening」の4分野を中心に、しっかりとした基礎(土台)となる英語力を確実に養う。英語の感覚や英語で思考する習慣をつけられるようにする。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	各章で学ぶ語彙や文法を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて相手とコミュニケーションできる技能を身につけているかを小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	各章で書かれている文章について、文の構造を意識しながら英文を読んでいるか、重要単語、熟語、イディオム表現を熟知しているか、基本的な文法理解し、表現できるかを小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の言語活動への積極的な取り組みや課題状況で評価する。
留 意 事 項		①文の構造を意識しながら、辞書を使用し独力で英文を読解できるようにする。 ②単語、熟語、イディオム表現を理解し、定着できるようにする。 ③テーマを通して様々なことに興味をもち、自分の考えを英語を用いて表現できるようにする。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	1章 2章 4章 5章	01:準2級の重要名詞① 09:自動詞と他動詞 24:Eメール問題の攻略法① 35:リスニング 会話表現①	春季課題提出
	5	1章 2章 4章	02:準2級の重要名詞② 10:注意すべき時制 11:注意すべき受け身 25:Eメール問題の攻略法②	中間考査
	6	1章 2章 4章	03:準2級の重要動詞① 12:助動詞① 13:助動詞② 26:Eメール問題の攻略法③	
	7	1章 2章 4章 5章	04:準2級の重要動詞② 14:仮定法 27:Eメール問題の攻略法④ 36:リスニング 会話表現②	期末考査
第2学期	9	1章 2章 4章	05:準2級の重要形容詞・副詞 15:不定詞 28:英作文問題の攻略法① 29:英作文問題の攻略法②	夏季課題提出
	10	5章 1章 2章 4章	37:リスニング 説明文の表現 6:準2級の重要前置詞・接続詞 16:動名詞 17:分詞構文 30:英作文問題の攻略法③	中間考査
	11	1章 2章 4章 5章	31:英作文問題の攻略法④ 7:準2級の重要熟語 18:関係詞① 19:関係詞② 32:英作文問題の攻略法⑤	
	12	1章 2章 4章	38:リスニング問題のテクニク① 08:準2級の重要会話表現 20:比較① 21:比較② 33:英作文問題の攻略法⑥	期末考査
第3学期	1	3章 5章	24:英作文問題の攻略法⑦ 22:長文読解のテクニク① 23:長文読解のテクニク② 39:リスニング問題のテクニク②	冬季課題提出
	2	総復習 二次面接試験対策	1年間で学んだ表現や文法の復習を行う。 流れを確認し、Weblio Studyを使用しながら理解を深める	
	3	総復習	1年間で学んだ表現や文法の復習を行う。	学年末考査

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	必修					
科別	商業	科 学 年	2 年	コース名	プログレス	コース	2	単位	
教科書（発行所）	大修館書店「家基709」「Creative Living【家庭基礎】で生活を作ろう」								
副教材（発行所）	第一学習社 生活ハンドブック								

学 習 目 標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。
	思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。
	主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
留 意 事 項		小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 定期考査の点と提出物を観点別評価に組み込む 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第8章経済生活のマネジメント 1 生活を営むためのお金 2 経済の仕組みを知ろう 3 お金と上手に付き合う術 4 18歳で変わる消費生活	1 経済的な自立 2 家計の構造と社会 3 経済計画とリスク管理 4 消費と契約	
	5	5 進むキャッシュレス社会 6 「お金を借りる」ということ 7 消費者トラブルの今 8 消費者の自立を支援する	5 購入方法・支払方法の多様化 6 消費者信用の利用と管理 7 多様化する消費者問題 8 消費者保護の法律としくみ	中間考査
	6	9 情報社会を生きる 10 私たちが社会を動かす 第9章 食生活のマネジメント 1 体と心を満たす食事 2 イエローカードかも？	9 情報の収集と整理 10 消費者の権利と責任 1 食事の役割 1 食生活を見直す	
	7	3 栄養バランスの良い食事 4 炭水化物を摂る	3 栄養素の量と食事の量 4 炭水化物の働きと食品の調理性	期末考査 夏季休業課題 ゼラチンと寒天の比較
第2学期	9	5 脂質を摂る 6 たんぱく質を摂る	5 脂質の働きと食品の調理性 6 たんぱく質の働きと食品の調理性	
	10	7 無機質を摂る 8 ビタミンを摂る	7 無機質の働きと食品の調理性 8 ビタミンの働きと食品の調理性	金融教育講義 調理実習
	11	10 豊かな食卓に 11 食品のプロフィールを知る 12 食品を安全に取り扱う	10 調味料・香辛料・嗜好品・加工食品 11 食品の選択と購入 12 食品の保存と衛生士	実技テスト りんごの皮むき試験
	12	13 持続可能な食生活 14 みんなでおいしい食事を	13 環境と食生活 14 献立に立て方	期末考査
第3学期	1	第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1 家族って何だろう 2 分かってくれて当然 3 生活マネジメントの拠点	1 家族の定義と家族構成の変化 2 家族の人間関係と家族間の問題 3 家庭の機能と労働	
	2	4 法律から見る家族・家庭 5 ダイバーシティの実現を目指す	4 家族・家庭の法律 5 家族・家庭と社会	
	3	テスト返却と復習まとめ	テスト返却 復習・まとめ	学年末考査

教科名	家庭科	科目名	家庭総合	必須					
科別	商業	科 学 年	2 年	コース名	キャリアアップ	コース	2	単位	
教科書（発行所）	大修館書店「家基705」「Creative Living【家庭総合】で生活を作ろう」								
副教材（発行所）	第一学習社 生活ハンドブック								

学 習 目 標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。
	思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。
	主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
留 意 事 項		小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 定期考査の点と提出物を観点別評価に組み込む 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 生活のマネジメント 1 生涯、発達し続ける 2 意思決定を重ねてつくる人生 3 どんな生き方をする？	1 ライフステージと発達課題 2 意思決定と生活資源 3 ライフスタイルの選択	
	5	第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1 家族って何だろう 2 分かってくれて当然 3 生活マネジメントの拠点	1 家族の定義と家族構成の変化 2 家族の人間関係と家族間の問題 3 家庭の機能と労働	中間考査
	6	4 法律から見る家族・家庭 5 ダイバーシティの実現を目指す	4 家族・家庭の法律 5 家族・家庭と社会	
	7	第8章経済生活のマネジメント 1 生活を営むためのお金	1 経済的な自立	期末考査 夏季休業課題 ゼラチンと寒天の比較
第 2 学 期	9	2 経済の仕組みを知ろう 3 お金と上手に付き合う術 4 18歳で変わる消費生活	2 家計の構造と社会 3 経済計画とリスク管理 4 消費と契約	
	10	5 進むキャッシュレス社会 6 「お金を借りる」ということ 7 消費者トラブルの今 8 消費者の自立を支援する	5 購入方法・支払方法の多様化 6 消費者信用の利用と管理 7 多様化する消費者問題 8 消費者保護の法律としくみ	中間考査 金雄教育講義
	11	9 情報社会を生きる 10 私たちが社会を動かす 第9章 食生活のマネジメント 1 体と心を満たす食事 2 イエローカードかも？	9 情報の収集と整理 10 消費者の権利と責任 1 食事の役割 2 食生活を見直す	実技テスト りんごの皮むき試験
	12	3 日本の食文化「WASHOKU」 4 栄養バランスの良い食事	3 日本と世界の食文化 4 栄養素の量と食事の量	期末考査
第 3 学 期	1	5 炭水化物を摂る 6 脂質を摂る	5 炭水化物の働きと食品の調理性 6 脂質の働きと食品の調理性	
	2	7 たんぱく質を摂る 8 無機質を摂る	7 たんぱく質の働きと食品の調理性 8 無機質の働きと食品の調理性	
	3	テスト返却と復習まとめ	テスト返却 復習・まとめ	学年末考査